

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年12月14日
【四半期会計期間】	第62期第3四半期（自 2020年8月1日 至 2020年10月31日）
【会社名】	株式会社オーエムツーネットワーク
【英訳名】	OM Network Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大越 勤
【本店の所在の場所】	東京都港区芝大門2丁目4番7号
【電話番号】	03(5405)9541
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 澄川 新一
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝大門2丁目4番7号
【電話番号】	03(5405)9541
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 澄川 新一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第3四半期連結 累計期間	第62期 第3四半期連結 累計期間	第61期
会計期間	自2019年2月1日 至2019年10月31日	自2020年2月1日 至2020年10月31日	自2019年2月1日 至2020年1月31日
売上高 (千円)	21,883,431	21,491,074	29,961,739
経常利益 (千円)	784,040	1,055,955	1,239,199
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	508,451	549,364	678,922
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	469,786	561,473	644,944
純資産額 (千円)	13,110,714	13,664,397	13,285,873
総資産額 (千円)	16,387,640	17,734,032	16,471,297
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	75.31	81.56	100.56
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	80.0	77.1	80.7

回次	第61期 第3四半期連結 会計期間	第62期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年8月1日 至2019年10月31日	自2020年8月1日 至2020年10月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	26.63	29.15

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。  
なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、今後の経過によっては当社グループの事業活動及び収益確保に影響を及ぼす可能性があります。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う世界的な経済活動の停滞により、極めて厳しい状況となっております。コロナ禍への政府の対応として「緊急事態宣言」等様々な政策が施行される中、個人の外出や消費は大幅に減退し、企業活動は従業員の安全への配慮を優先するとともに、需要の縮小や供給不安など、社会及び経済活動全般に先行きが不透明な状況となりました。

当社グループ中核事業の属する食品小売業界におきましては、取り扱う商品が国民の毎日の生活にとって欠かせない必需品であることから、大部分の店舗での営業は継続されたものの、商業施設等の一部店舗の休業や営業時間の短縮など負の影響も発生し、依然として続く労働力不足や人件費の上昇、物流費の増加等に加え、更に不透明な状況が続いております。

このような中で当社グループは、政府や自治体による新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に関わる様々な要請に応えるとともに、従業員の健康と安全管理の徹底を最優先したうえで、雇用を維持しお客様のニーズに応えるべく様々な施策を実行しております。小売部門においては、対策本部を設置のうえ、意思決定や情報共有を円滑に図るとともに、地域の方の毎日の生活を支えるという使命のもと、お客様に安全に安心して食品をお買い物いただくことができるよう日々の店舗運営維持に努めてまいりました。

外食事業にあっては、4月に入ってから緊急事態宣言発出以降、首都圏や他の大都市圏における多くの店舗が休業を余儀なくされる事態となりましたが、5月後半の同宣言解除以降、営業時間の制限など制約はあるものの、全店での営業を再開しております。今後とも当事業を取り巻く環境は、厳しい状態が続くものと想定してありますが、最優先すべきはお客様と従業員の安全との前提のもと、ソーシャルディスタンスの確保や消毒の徹底等店舗における感染予防策を徹底した上で営業を継続していく方針です。なお、上記休業に伴う損失は店舗休止等損失として計上しております。

以上により、当第3四半期連結累計期間の売上高214億91百万円（前年同期比1.8%減）、営業利益は8億26百万円（同26.2%増）、経常利益は10億55百万円（同34.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は店舗休止等損失2億16百万円の計上により5億49百万円（同8.0%増）となりました。

営業の概況をセグメント別に記述すると以下の通りであります。

#### 「食肉等の小売業」

当第3四半期連結累計期間の開店は3店、閉店は8店であり、その結果、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は140店になりました。内訳は食肉小売店127店（前期末比2店減少）、惣菜小売店13店（同3店減少）であります。当セグメントを取り巻く環境は上記記載の通りで、新型コロナウイルス感染症対策での外出自粛等により家庭需要が増大したことなどから、売上高は176億77百万円（前年同期比12.5%増）、営業利益は13億52百万円（同115.2%増）となりました。尚、本事業を管轄する子会社(株)オーエムツーミートの当第3四半期連結累計期間は2020年2月1日～2020年10月31日となっております。

#### 「外食業」

当第3四半期連結累計期間の開店はなく、閉店は6店であり、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は42店になりました。当セグメントを取り巻く環境は、上述の通り、新型コロナウイルス問題の影響を強く受けたこと等から、売上高は39億9百万円（前年同期比37.4%減）、営業損失は2億86百万円（前年同期は2億48百万円の営業利益）となりました。尚、本事業を管轄する子会社2社の当第3四半期連結累計期間は以下となっております。

(株)オーエムツーダイニング(ステーキレストラン事業) 2019年12月1日～2020年8月31日

(株)焼肉の牛太(焼肉・しゃぶしゃぶ事業) 2020年1月1日～2020年9月30日

( 2 ) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は116億17百万円となり、前連結会計年度末に比べ、9億92百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が増加したこと等によるものです。固定資産は61億16百万円となり、前連結会計年度末に比べ、2億70百万円増加いたしました。この結果、総資産は177億34百万円となり、前連結会計年度末に比べ、12億62百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は35億58百万円となり、前連結会計年度末に比べ、8億14百万円増加いたしました。これは主に未払法人税等及び賞与引当金が増加したこと等によるものです。固定負債は5億11百万円となり、前連結会計年度末に比べ、69百万円増加いたしました。この結果、負債の部は、40億69百万円となり、前連結会計年度末に比べ、8億84百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間末における純資産の部は136億64百万円となり、前連結会計年度末に比べ、3億78百万円増加いたしました。

( 3 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

( 4 ) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,280,000
計	17,280,000

## 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数 (株) (2020年10月31日)	提出日現在発行数 (株) (2020年12月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,335,634	7,335,634	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100 株であります。
計	7,335,634	7,335,634	-	-

## (2)【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年8月1日～ 2020年10月31日	-	7,335,634	-	466,700	-	1,529,877

## (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2020年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 605,400	-	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,728,900	67,289	同上
単元未満株式	普通株式 1,334	-	同上
発行済株式総数	7,335,634	-	-
総株主の議決権	-	67,289	-

(注) 上記完全議決権株式(その他)の欄には、証券保管振替機構名義の株式300株(議決権の数3個)が含まれております。

## 【自己株式等】

2020年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社オーエムツー ネットワーク	東京都港区芝大門 2 - 4 - 7	605,400	-	605,400	8.25
計	-	605,400	-	605,400	8.25

(注) 2020年3月12日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期会計期間において自己株式2,500株を取得いたしました。その結果、当第3四半期会計期間末現在における自己株式数は、単元未満株式の買取りにより取得した株式数を含めて605,419株(発行済株式総数に対する所有株式の割合8.25%)となっております。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年8月1日から2020年10月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年2月1日から2020年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年10月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	8,212,999	8,993,260
受取手形及び売掛金	386,751	216,189
テナント未収入金	1,301,445	1,493,885
商品及び製品	404,378	454,987
原材料及び貯蔵品	37,627	32,369
未収入金	164,176	242,771
その他	118,410	184,101
貸倒引当金	952	71
<b>流動資産合計</b>	<b>10,624,837</b>	<b>11,617,493</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	3,679,527	3,585,135
減価償却累計額	1,922,014	1,967,300
建物及び構築物(純額)	1,757,512	1,617,834
機械装置及び運搬具	429,094	437,831
減価償却累計額	279,975	301,016
機械装置及び運搬具(純額)	149,119	136,814
土地	527,407	527,407
その他	1,896,330	1,949,207
減価償却累計額	1,429,361	1,507,160
その他(純額)	466,968	442,047
減損損失累計額	601,981	554,050
<b>有形固定資産合計</b>	<b>2,299,025</b>	<b>2,170,052</b>
無形固定資産	108,924	109,669
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,028,601	2,213,480
長期貸付金	56,339	48,362
退職給付に係る資産	117,788	116,181
繰延税金資産	164,464	415,291
敷金及び保証金	1,049,206	1,013,595
その他	35,303	43,099
貸倒引当金	13,195	13,195
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>3,438,509</b>	<b>3,836,816</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>5,846,459</b>	<b>6,116,538</b>
<b>資産合計</b>	<b>16,471,297</b>	<b>17,734,032</b>



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,621,081	1,669,707
1年内返済予定の長期借入金	-	17,360
未払金	345,974	553,693
未払法人税等	161,591	382,651
賞与引当金	69,452	330,658
その他	545,766	604,195
流動負債合計	2,743,866	3,558,266
固定負債		
長期借入金	-	82,640
退職給付に係る負債	38,450	40,938
役員退職慰労引当金	64,752	67,514
資産除去債務	261,493	254,853
その他	76,860	65,420
固定負債合計	441,557	511,367
負債合計	3,185,423	4,069,634
純資産の部		
株主資本		
資本金	466,700	466,700
資本剰余金	1,391,999	1,391,999
利益剰余金	11,880,254	12,267,590
自己株式	576,698	597,619
株主資本合計	13,162,254	13,528,670
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	105,370	126,401
退職給付に係る調整累計額	18,248	9,326
その他の包括利益累計額合計	123,618	135,727
純資産合計	13,285,873	13,664,397
負債純資産合計	16,471,297	17,734,032

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年10月31日)
売上高	21,883,431	21,491,074
売上原価	13,079,557	13,208,453
売上総利益	8,803,874	8,282,620
販売費及び一般管理費	8,148,576	7,455,894
営業利益	655,298	826,726
営業外収益		
受取利息	731	647
受取配当金	1,646	1,606
持分法による投資利益	74,558	168,327
家賃収入	7,613	3,087
協賛金収入	24,581	34,348
受取手数料	715	688
その他	19,602	21,289
営業外収益合計	129,450	229,995
営業外費用		
支払利息	61	140
不動産賃貸原価	240	242
その他	405	383
営業外費用合計	708	765
経常利益	784,040	1,055,955
特別利益		
受取補償金	31,200	3,220
補助金収入	-	168,306
店舗売却益	-	10,000
受取保険金	2,900	-
特別利益合計	34,100	81,526
特別損失		
有形固定資産除却損	11,123	7,284
減損損失	11,615	45,670
店舗閉鎖損失	4,977	42,484
店舗休止等損失	-	2216,653
特別損失合計	27,716	312,092
税金等調整前四半期純利益	790,424	825,388
法人税、住民税及び事業税	298,004	529,120
法人税等調整額	16,031	253,096
法人税等合計	281,972	276,024
四半期純利益	508,451	549,364
親会社株主に帰属する四半期純利益	508,451	549,364

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年10月31日)
四半期純利益	508,451	549,364
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,408	4,481
退職給付に係る調整額	985	1,575
持分法適用会社に対する持分相当額	50,088	9,203
その他の包括利益合計	38,665	12,108
四半期包括利益	469,786	561,473
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	469,786	561,473

## 【注記事項】

## (追加情報)

当社グループは、新型コロナウイルス感染症の影響に関して、従来2020年末に向けて徐々に正常化するとの仮定を置いておりましたが、収束時期が未だ不透明な状況にあることから、少なくとも2021年1月期に渡り続くとの仮定に変更し、固定資産の減損等の会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、当連結会計年度の当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

## (四半期連結損益計算書関係)

## 1 補助金収入

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置の適用を受けた雇用調整助成金を補助金収入として特別利益に計上しております。

## 2 店舗休止等損失

新型コロナウイルス感染症に対する政府・自治体からの各種要請等を踏まえ、店舗の臨時休業等の営業停止期間が発生しました。当該休業期間中に発生した固定費（人件費、賃借料、減価償却費等）を店舗休止等損失として特別損失に計上しております。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年10月31日)
減価償却費	337,031千円	335,770千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年2月1日 至 2019年10月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年4月25日 定時株主総会	普通株式	162,028	24	2019年1月31日	2019年4月26日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2020年2月1日 至 2020年10月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年4月28日 定時株主総会	普通株式	162,028	24	2020年1月31日	2020年4月30日	利益剰余金

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2019年2月1日 至2019年10月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食肉等の 小売業	外食業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,673,425	6,210,006	21,883,431	-	21,883,431
セグメント間の内部売上高又は 振替高	43,242	37,054	80,296	80,296	-
計	15,716,667	6,247,060	21,963,727	80,296	21,883,431
セグメント利益	628,644	248,604	877,248	221,950	655,298

(注)1. セグメント利益の調整額 221,950千円は、セグメント間取引消去 39,192千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 182,758千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない人件費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「食肉等の小売業」及び「外食業」において、損益及びキャッシュ・フローが継続的にマイナスとなっている店舗及び閉鎖を決定した店舗の店舗設備等の一部資産について、減損損失を認識しました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において「食肉等の小売業」8,250千円、「外食業」3,365千円です。

当第3四半期連結累計期間(自2020年2月1日 至2020年10月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食肉等の 小売業	外食業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,621,537	3,869,536	21,491,074	-	21,491,074
セグメント間の内部売上高又は 振替高	55,764	39,773	95,537	95,537	-
計	17,677,301	3,909,310	21,586,611	95,537	21,491,074
セグメント利益又は損失( )	1,352,755	286,625	1,066,130	239,404	826,726

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 239,404千円は、セグメント間取引消去 51,714千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 187,690千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない人件費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「食肉等の小売業」及び「外食業」において、損益及びキャッシュ・フローが継続的にマイナスとなっている店舗及び閉鎖を決定した店舗の店舗設備等の一部資産について、減損損失を認識しました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において「食肉等の小売業」25,235千円、「外食業」20,435千円です。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年10月31日)
1株当たり四半期純利益	75円31銭	81円56銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	508,451	549,364
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益(千円)	508,451	549,364
普通株式の期中平均株式数(株)	6,751,181	6,735,541

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年12月11日

株式会社オーエムツーネットワーク

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 安井 康二 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 溝 静太 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オーエムツーネットワークの2020年2月1日から2021年1月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年8月1日から2020年10月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2020年2月1日から2020年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オーエムツーネットワーク及び連結子会社の2020年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。